

酒米「夢ささら（栃木酒 27 号）」の良質安定栽培の確立

要約

収量性では試験区が多く、品質面では整粒歩合は慣行区、心白発現率は試験区がよかった。ただし、今回の結果は単年度の結果であるため、次年度も同様の試験の実施を検討する。

○ 展示のねらい

那須地域において、酒米「夢ささら（栃木酒 27 号）」は平成 30 年産より栽培が開始され、栽培面積は 7.7ha が作付けされた。安定した高品質酒米生産のために、収量及び品質が安定する栽培方法の確立と、それによる経営改善効果を検証する。

○ 主な成果

区名	施肥資材 (N-P-K)	基肥施用量 (kg/10a)	緩効性窒素 (%)	備考
試験区	ひとふりくん側条 086 (20-18-16)	25 (N:5)	LPS100 : 6.5 LPSS100 : 6.5	コシカ利用
慣行区	ひとふりくん側条 055 (20-15-15)	25 (N:5)	LP40 : 1.6 LPSS100 : 10.0	あさひの夢用

	移植日	栽植密度 (株/m ²)	1株本数 (本)	移植後30日(6/15)			最高分けつ期(7/4)		
				草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉色	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉色
試験区	5月9日	18.2	3	39.7	265.7	3.5	60	364.0	3.5
慣行区	5月9日	18.2	3	44.4	369.5	3.3	58	402.2	3.3

	(7/18)			出穂期	葉色	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	成熟期
	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉色						
試験区	87.2	273.0	3.5	8月8日	3.3	89.7	24.7	273	9月26日
慣行区	81	344.0	3.1	8月8日	3	89	24	254	9月26日

	1穂粒数	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	推定収量 (kg/10a)	整粒 (%)	未熟粒 (%)	心白発現 (%)	等級	発芽粒率 (%)
試験区	90	82	26.6	531	68.9	29.9	62.6	2中	4.2
慣行区	81	78	26.6	423	74	24.8	58.9	2中	4.8

生育期間中をとおして、気温が高めに推移し、観測史上最も早い梅雨明けを観測するなどから生育は進んだ。初期の生育は慣行区が旺盛であったが、最終的には、稈長、穂長、穂数ともに試験区が多くなり、収量も試験区が約 100kg/10a 多くなったが、目標とした数量を上回ることにはできなかった。品質は、整粒歩合は慣行区のほうが 5.1% 高かったが、心白発現率は試験区が 3.7% 高くなった。しかし、秋の長雨により登熟が全体的に悪く、特に穂発芽の影響により品質はともに 2 等となった。

経営評価としては、収入では、色彩選別機により調整し、品質は 1 等であったため、収量があった試験区は 10 万円を超えた。支出については、慣行区が肥料代分が約 370 円安くなった。所得としては、収量の差により、試験区が約 14,700 円多くなった。

今年の結果から、収量性では試験区が多く、品質面では整粒歩合は慣行区、心白発現率は試験区がよかった。

ただし、今回の結果は単年度の結果であるため、次年度も同様の試験の実施を検討する。

	ひとふり088 試験区	ひとふり055 慣行区
収入 生産物	111,650	96,550
収入計	111,650	96,550
支出		
種苗費	5,783	5,783
肥料費	5,750	5,375
農薬費	10,600	10,600
その他経費	50,000 収視調整込み	50,000 収視調整込み
支出計	72,133	71,758
所得	39,517	24,792

※支出は経営診断指標から一部引用した。

○ 今後の方向性

慣行区肥料に比べ、試験区肥料の有利性等は明確となったが、単年度の結果であるため、引き続き実証を継続し、品種の特性を把握しながら、栽培環境にあった肥料等栽培方法を検討し、夢ささらの普及推進に努める。

実施機関：那須農業振興事務所経営普及部 実施場所：大田原市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315